



第 137 号 (2008)

〒733-0032 広島市西区東観音 8-10

ワールド・フレンドシップ・センター

理事長：森下弘 館長：ケント&サラ・スワイツァー

TEL (082) 503-3191

FAX (082) 503-3179

E-Mail wfchiroshima@nifty.com

URL: <http://www.wfchiroshima.net/>

米国アライアンス市
シカゴ原爆展報告
岡田 恵美子

広島平和文化センター理事長

スティーブン・ロイド・リーパー

平和記念資料館主事 坂本 千景

被爆体験証言者 岡田 恵美子

米国オハイオ州アライアンス市

マウントユニオン大学

米国イリノイ州 デュポール大学

平成 19 年 10 月 15 日～25 日 訪米

18 日 (木)

宮原 恵子さん (女学院卒 マウントユニオン大学 留学生) とアクロン市役所訪問し、原爆展を依頼してきました。

19 日 (金)

マウントユニオン大学内の教会で学生・一般の人に最初の被爆証言をしました。ノーモアヒロシマをプリントした T シャツを着用し、パワーポイントを利用して 62 年前の体験 現在地球上の 3 万個ある核弾頭を世界地図で説明しながら核兵器廃絶に皆さんと話し合い、何らかのアクションを起こしてほしいと話しました。

20 日 (土)

ロビーで原爆写真の説明をしながら講義室にて被爆証言をしました。

WFC 前館長のアリスとラリーが笑顔で来て下さり再会を喜びあいました。

(質問)

- ・平和と折り鶴の意味を教えてください
- ・つらい体験を何故話すのか?
- ・広島だけでなく米国もパールハーバーや戦争に関するつらい体験をしている。原爆投下だけ語るのか? (退役軍人)
- ・日本政府が中国に対して謝罪してないのでどのように思うか? (中国留学生)
- ・ドイツも歴史上様々なつらい目に合っている。他国に悪いことをしているし、どの国も似ている様な事をしていると思う。他国を責める資格はどこにもなく歴史から学び、国を超えて今後の平和を考えるべきだと思う。(ドイツ留学生)
- ・今後の平和のために具体的にどのような事が出来るのか?
- ・アメリカ人を憎いと思うか?
- ・日本の学生は原爆・戦争の勉強をしているか?

21 日 (日)

アライアンス市内の教会で礼拝に参加し
沢山の出会いがありました。

その後新しく出来たナーシングホームの
見学 (リゾート地のホテルのような老人
ホームでした) 大学生対抗アメリカン
フットボール観戦 公園の散策 (リーパ
ーさんは蛇を捕まえ楽しんでいました)
をしました。

原爆の事は地元のマスコミにも大きく取
り上げられました。新聞紙面によれば、
原爆の悲惨さや現状の事などほとんど知
らなかったようです。会場で聴講してく
れたほとんどの人は素直に聞いてくれ
「自分に何かできるか？」考えてくれて
いる様でした。

22 日 (月)

シカゴでは広島出身の宮本ゆきさん (デ
ュポール大学宗教学部助教授) に、送迎、
スケジュール、通訳とお世話になりました。

日本主席領事と昼食会

(質問) (デュポール大学日本語研究科)

- ・原爆投下したアメリカをどう思うか？
- ・将来、原爆投下がなくなると思うか？
- ・平和的政治家に投票以外にアメリカの大
学生として何が出来るのか？

(質問) (ノースウエストタン大学)

- ・アメリカ政府から援助はあったのか？
- ・核廃絶は可能か？
- ・アメリカを責め、憎んだりしているか？
- ・原爆について日本では話題になるか？
- ・原爆が戦争を早く終わらせたという意見
をどう思うか？
- ・南京大虐殺について、日本政府は正式に
謝罪していないのは何故か？

23 日 (火)

デュポール大学宗教学部の講義として被
爆証言をしました。

(質問)

- ・これまで証言して一番の成果は何か？
- ・他の国とアメリカの聴講者との関心度の
違いはあるか？
- ・今後、国連に望む事はあるか？

24 日 (水)

日本研究学科の女子学生に被爆証言

(質問)

- ・広島の復興はどの様に行われたのか？「レ
バノン は昨年から内戦で自分の家族、親
戚、友人が殺し合いをしている」と、涙
を流しながら話してくれました。(レバノ
ンからの留学生)

25 日 (木)

- ・シカゴ市役所訪問 ヒロシマナガサキ原
爆展 平和市長会議加盟依頼
シカゴ市長からのメッセージを聴く。
- ・レイクビュー高校生の歴史の授業で被爆
証言

紅白の折鶴を暖簾にしてくれた高校生
目を輝かせて聴いてくれた学生の中に数
人軍服を着た女生徒がいた。

原爆展レセプション

デュポール大学カルチャラーセンターで、
シカゴ市役所室長 ジーン・リー室長
シカゴ日本国篠田総領事 デュポール大
学学長 リーパー理事長のメッセージで
レセプションが始まった。

丸木位里、俊の『原爆の図』が舞台正面
に映像で映し出され、その前でアメリカ
の学生が原爆の詩を朗読 (2 か国語)、そ
の後被爆体験を証言し、200 人位の参加
者と一人ずつ握手をしました。

特に若い人が目を輝かせ真剣な態度で聞いて下さり「今後平和に向けて何かを始めたい」と前向きな反応が多く、感銘を受けました。

核の脅威が実感出来ない人が多いと感じたのですが、今回の原爆展が平和の為に考え行動するきっかけとなり、今後に繋がっていく期待は持てた様に思います。核保有国こそ、飢餓や貧困、幼い子供の死を真剣に受け止め、無駄な労力を使っているという事に早く気づいて欲しいと思います。

世界中の子供が笑顔で過ごせる様に証言を伝え続けていく事が、私の役割であり自他祝福を願っております。

“内も外も” 変化するワールドフレンドシップセンター(WFC)のビジョン 次世代に“トーチを引き継ぐ”

ボランティア館長
ケント・スワイツァー

WFCに投宿の世界を旅するゲストから時々、「ワールドフレンドシップセンターは、ここのほか何処にありますか？」という質問を受ける。名前というのは、大いに組織の使命、期待感、潜在能力といったものを表わすことが出来るものだ。WFCの創立者バーバラ・レイノルズが彼女のビジョンを託したその名前は、“広島フレンドシップセンター”でもなく“日本フレンドシップセンター”でも、単なる“フレンドシップセンター”でもないワールドフレンドシップセンターであって、まさに世界のフレンドシップを示唆したものであった。平和の

推進、国境を越えて友愛を築くというミッションは、一つの場所での限られた人達によるプログラムや活動だけではなく、世界中の協力とパートナーシップなければ果たせない。

“生命を超越する大きな存在”や“目下の事がらの向こう”を思考するバーバラの英知から、我々は皆の力でこれまでに可能なことも困難な課題も見つけてきたので、ワールドフレンドシップセンターは新たな信念と自信を持ってもっと効果的な前進が出来るはずだと思っている。グローバルな今後の展開の可能性分野としては“他と連携すること”、“我々のボランティアの経験と機会を意識的に高めていくこと”の二つになると思う。バーバラ自身、広島、長崎の被爆者との関わりに始まり、ワールドフレンドシップセンターを広島に創立、アメリカのウイルミントン大学にピースリソースセンター（PRC）を創設、と進展させている。さらに、ベトナムやカンボジアの孤児や難民問題への献身など、あの時代が求めた平和活動に携わった。バーバラは責任という“トーチ（松明）を引き継ぐ”のをためらわなかったし、彼女が大切かつ重大と思う信念や目的のために人々を引き入れることにも躊躇はなかった。自分のビジョンやアイデアを共有することと同じくらい、ピースミッションの推進には“他との連携”が大切なことを分かっていたのだ。彼女のアイデアが今でも人を鼓舞し続けるのは、困難や後退が無いわけでは勿論ないが、平和と理解のメッセージを通してボランティアを他の人たちと結びつけるというビジョンがあるからである。

持続を願う多くの組織には、時代とともにその使命の進化や再評価が必要となるが、2、3世代止まりで消えるものは、その多くが世の中の変わりゆくニーズにしっかり適応していないことが多い。つまり新しい世代の興味や理解と結びついていないので関連性を失ってしまうのだ。その使命遂行途次の一環として自身の“再生”をやらないで失敗する、ということが多い。変化は殆ど予告もなく否応なくやってくるものもあるが、ちょうどバーバラの人生に於いてそうであったように、そんな瞬間こそが“機会”を提供し、行動を起こす“インスピレーション”を与え、持続的かつ生産的な変化を生み出す動機となるのである。

日本の制度の範囲内で我々の可能性をより生かせる組織とする為に、ワールドフレンドシップセンターはNPO（非営利団体）となることにした。その準備過程において、WFCの目標、組織、運営などの詳細を明確にできるだけでなく、ひろくNPOの仲間入り出来る。NPOの多くは様々な“ビジネス形態”を用いながら、我々と似通った平和教育や社会正義に対する情熱をもって活動している。資力やプログラムを共有するためのパートナーシップの可能性はエキサイティングで、他の国々とともに平和活動を推進するだけでなく次世代へ繋げるカギをなにか提供してくれるかもしれない。

ワールドフレンドシップセンターは独特の素晴らしい“財産”を幾つか持っている—すこぶる評判の日本式**ゲストハウス**、大切な社会と結びついた地域ベースの実用**英語会話プログラム**、熱意あふれる**ピースパークガイド**のボランティアの存在、**むつみ園**

原爆養護老人ホーム訪問、**ピースクワイア**、**被爆者証言**、長年にわたる**平和交換プログラム**などなど。詳細はワールドフレンドシップセンターのホームページの“活動”をクリックしていただきたい。

www.wfchiroshima.net/

WFCの理事や英語クラス生徒ら多くのボランティアが、ピースガーデン・ヴィラの教室を始めWFCの家屋の目覚ましい改善プロジェクトに参画してその作業を楽しんだ。WFCのサービスや“財産”を維持改善していく作業、これは実際的であるばかりか時には教育的で、しかも英語でやり取りしながらペンキ塗りや宿泊客もてなし技術が学べる楽しい方法でもある。(今号の小倉千代子さんの「ボランティア活動に参加して」参照)

もう一つ新しいことは、WFCに滞在のゲストを英語クラスに招きその人の特別な関心事、或いは専門分野の話を聞かせてもらう試みである。このフォーラムでは、数ある世界の関心事のいくらかでもWFCの教室へ持ち込むことで、広島という一地域を国際社会と繋げることが出来る。一例として、WFCウェブサイトの**WFC Albums**のリンク、**Professor Nick Waterproof Rice**を見て頂きたい。

大学生がWFCとコネクションを持ち対話、交流する先駆的方法はインターンシップ・プログラムの利用である。今年と来年WFCは、修道大学とオハイオのウイルミントン大学（**ピースリソースセンター**）の両者とユニークな二つのインターンシップ・プログラムでパートナーを組むことになった。2008年9月、広島修道大学の学生2名がWFCで10日間インターン生として過ごす。

先ずバーバラ・レイノルズ、原田東岷、ノーマン・カズンズ氏らの著書、資料などを読み背景的知識を得たのち二人は、WFCで生徒として、先生として、あるいはゲストや館長として、理事会ではゲスト理事としての経験もするだろう。組織のことを熟知するための証明済みの方法に、その組織を他人に“経験”してもらおうというのが、それによって可能性が広がるのだ。既存の他のプログラム(例えば大学などの)と組んで、我々の多彩な能力、資力をより良く活用するとすれば、どんな活動や機会を別な形で押し進められるのだろうか?次世代との交流がもっと頻繁になれば、人と人が出会う、日々の運営にボランティアの時間活用、など我々の目標や使命をより明確にする上でどう役立つのだろうか?

WFCはウェブサイトを更新したが、プロジェクト推進には栗原弘行さんの多大なボランティア貢献があり、そのコンピューター、プログラミング技能のお陰で現在のホームページが出来上がった。種々の新しい形、方法を研究しそれらを取り入れて作成されている。我々の目標の一つは、多くの“パートナー”のウェブサイトとWFCを文字通りリンクすることであり、それによりセンターの有用性は高まり、宿泊客、生徒そしてホームページ閲覧者がWFCを利用する際の情報提供に寄与する。ワールドフレンドシップセンターのパートナーとは、例えば広島平和記念資料館、平和公園、ブレザレンボランティアサービス(WFCのボランティア館長のリクルートに力を貸し研修を行う)、そしてウイリントン大学ピースリソースセンターなどである。

PRC(ピースリソースセンター)とWFCのウェブサイトをクリックして、こちらのプログラム、願望、そしてインターナショナルフォーラムを含め今日の若者たちの為に両者間の繋がりをもっと深めるという課題、などに関してアイデア交換をした。その対話を通して一つのプログラムが実現する運びとなり、最初のWFC-PRC-広島修道インターンシップ・プログラムが2009年5月に始まろうとしている。WFCはAbbey Pratt-Harringtonを初めてのインターン生として3ヶ月間受け入れる。2008年2月の理事会にて承認されたこの新しいエキサイティングなインターンシップの研究や範囲の概要は、次号友愛にてお知らせする予定である。

要は、ワールドフレンドシップセンターは時代の変化に沿った創造的、実際的な方法のビジョンを持ち、たゆみなく進化、刷新を続ける—WFCの内側も外側も—ということである。我々が思い描いている問題には次のようなものがある:他のNPOや大学を始め既存の組織と、より効果的にはどうパートナーを組むか?有能かつ深い関心を持つすべての人達にボランティア参加しWFCのミッション遂行に携わってもらう、どのような機会があるのか?努力の結晶である資金や尊い寄付などWFCの資産や財産を、どう有効に活用して広島を伝え、広く世界にピースメイキングのパートナーシップを築いていくのか?WFCは“内側も外側も”次世代に“トーチを引き継ぐ”ことを目指して将来に期待する我々は、今どうあるのがより効果的であるのか?

ボランティア活動に参加して

小倉千代子（水曜日クラス）

数年間 WFC の英会話教室のメンバーとして関わり、この度館長に貴重な機会を与えていただき感謝しております。

これまで“ボランティア”の意味はぼんやりとは知っていましたが、お手伝いをさせて頂いている間に自分自身が楽しく与えるものより得るものの多さに気づいてきました。

この気持ちこそが“ボランティア”なのだと思信しています。

私達水曜日クラスはクリスタルビーズ折り鶴作りから始まり、第2・4日曜日朝食サービス、最近では壁のペインティングのお手伝いをさせて頂きました。

クリスタルビーズの折り鶴に関しては、世界中のどんな場所にもどんな人々にもこのクリスタルの美しい光が照らされるよう・・・

そんな想いでクラス全員が一つ一つ作っています。

私達が先ず出来ることから始める事の素晴らしさを教わりました。WFCは世界各国から足を運ばれるゲストの方々に日本で一番思い出に残る“ひろしま”をつくり、平和を世界中に発信する場所だと思っています。これまで WFC で勉強を続けて来たからこそ得たものの一つです。これまで出会った館長さん達の魅力に心地よさを感じ続けてくることができました。広大なアメリカからこの小さな言語も違う日本に平和活動に自らの意思で滞在される館長と長年に渡って活動されている WFC のメンバーの方々の強い志・

信念と寛大さには感無量の思いであふれています。

お手伝いをさせて頂く中で沢山の感謝のお言葉を頂いていますが反対に私達がこのような機会に触れ感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

善悪を持つ人間ですが、WFCに関わっているその瞬間でも善の自分に会える喜び、自分が良い方向へと導かれる実感と見習うべき方々と出会えた事が奇跡だと思っています。

これからも同じ志を持つ平和を愛する人々が増え、小さな力が大きな力となり、その想いが実現することをお祈り申し上げます。

世界中から届く WFC のゲストの感想

WFC の宿泊客は記録簿に彼らの感想を記入しています。建設的な意見もたくさんあります。被爆者の話を聞き、WFC のガイドと平和公園の碑めぐりをした人はこの事をいつも書いています。オーストラリアのデザイナーは「特に、碑めぐりと被爆者の話に感謝しています。」イギリスの客は、「被爆者の話と碑めぐりはすばらしく最高でした。」カナダの映画プロデューサーは「暖かく居心地がよかった。被爆者に圧倒され、とても意義ある話し合いだった。」と書いています。

来客は宿泊設備を喜んでいきます。「よく眠れた!」、「すばらしい朝食、心地よいベッドと寝室!」、「我が家のようなだ、何もかもありがとうございます。」などが最近の感想です。時々お客の反応を見て善処する事もあります。フランスの家族から「寒い家だが暖かい雰囲気

気」と言われたので、すべての暖房器具を点検し、フィルターを掃除して暖かくなるように直しました。

ウェブサイト：wfchiroshima.net で宿泊施設のところから客からのコメントを読む事ができます。次の意見は WFC での全般的な反応です。「とても良かったので予定より二日長く滞在しました。」「なんと感激し、心に残る経験だった事でしょう。お礼の申しようありません。」スコットランドの医者は「すばらしい雰囲気だった。広島が好きになりました。」韓国の学生は「すごい！」と感想を述べています。

ゲストの経験に大いに協力してくださっているボランティアの皆さんに感謝しています。平和公園の碑めぐり、被爆者の話、暖かい寝具、快適な敷布団と清潔なシーツ、そして塗らたての壁の客室などはとても大切な事です。皆さんに感謝しています。

新しくできた水曜日午後の 英会話クラスのご紹介 サラ・スワイツァー

一クラスで生徒が何人以上になると多すぎるのでしょうか。正確な答えはありませんが、水曜日の午前のクラスは 14 人に達して、一人一人が話す時間が限られるので変えることにしました。いつものメンバーの山県八寿子さんと倉本節子さんがお手伝いしてくださって午後のクラスができました。クラスは午後 1:30 から 3:30 までです。新メンバーとして、道廣重紀さん、山岡美知子さん、平末洋子さんが加わりました。

WFC の英語クラスは、単なる英会話学習を超えたものがあり、長年にわたって育まれた親密な友情で結ばれています。毎月、第一水曜日だけは午前と午後の組と一緒に従来の仲間全部で勉強しますが、その他の水曜日は、一人ひとり発言の機会も多くとれるゆったりした午後のクラスです。まだ席に余裕がありますので、新メンバーも歓迎です。

友愛ボランティア

平本隆子、兼綱寿美子、山下美枝子
山根美智子、平岡佐知子
Kent & Sarah Sweitzer



木曜日クラス お花見



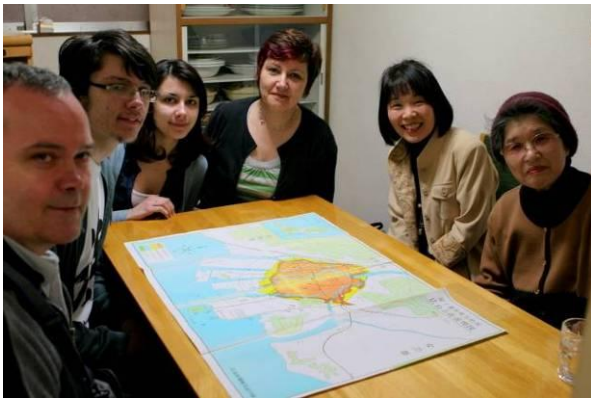
ピースパークガイドグループ(RERF で)



ピースウォーク 2008



ピースクワイアー



空先生の被爆証言



水曜日午後のクラス



NPO ミーティング



ボランティアの小倉千代子さん